

## ◆今後の活動

在住外国人や外国人観光客の多い京都。災害時には「言葉の壁」「制度の壁」「心の壁」がよりいっそう高くなります。

「やさしい日本語」有志の会では、京都のボランティア日本語教室で防災授業に取り組んでもらうことで「言葉の壁」を、他団体の方々との連携で行政に働きかけて「制度の壁」を、そしてワークショップを通して、より多くの方々に「やさしい日本語」を知っていただき、「心の壁」を低くする活動を今年も積極的に進めていきます。

「やさしい日本語」有志の会

## ◆関係団体ホームページ一覧

- ・「やさしい日本語」有志の会（作成中）  
<http://nihon5bousai.web.fc2.com/>
- ・防災教育チャレンジプラン <http://www.bosai-study.net/>
- ・財団法人京都府国際センター <http://www.kpic.or.jp/>
- ・京都にほんごRings <http://k-rings.holy.jp/>
- ・「やさしい日本語」 <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/>



この活動は、内閣府の防災教育チャレンジプランの助成を受けています。  
また、財団法人京都府国際センター、京都にほんごRingsの共催事業です。

## 「やさしい日本語」有志の会



## 「やさしい日本語」有志の会とは

防災に関する基礎知識も少なく、言葉もわからない外国人は災害時に「災害」と「情報」の二重の弱者となります。

災害時に少しでも多くの外国人も助かって欲しい。日本語支援ボランティアのそんな願いから設立したのが「やさしい日本語」有志の会です。

私たちは、より多くの日本語教室で防災教育に取り組んでもらえるよう様々な活動を行っています。



## 『やさしい日本語』に挑戦！

災害時に良く使われる次の言葉を、日本語を勉強中のウィルさんにやさしく説明してください。(答えは末頁)

- 安否を確認する
- 外出を控える
- 火の元を確認する
- 身の安全を確保する



災害時の日本語は日常生活には出てこない難しい言葉がたくさん出てきます。「やさしい日本語」は日本語能力試験3級程度の学習者の学ぶ語彙と文法で外国人にもわかりやすい情報提供を提案しています。詳しくは末頁のホームページをご参照ください。

## 活動内容

### ◆日本語教室での防災授業を

ボランティア日本語教室ではたくさんの外国人が日本語を学んでいます。そこで防災授業に取り組んでもらうため、教案の作成や防災ゲーム、イラストパネルの作成、防災グッズの貸し出しを行っています。



日本語教室では『防災ガイドブック』をテキストに使います。



棒材グッズの説明を聞く外国人学習者



ボランティア日本語教室で行われる防災授業

### ◆日本語教師の勉強会

防災授業を行うには、まず教師自身が正確な防災知識を身につける必要があります。勉強会では防災の基礎知識、最新情報やツールの使い方、授業の進め方などを学びます。



### ◆「やさしい日本語」ワークショップ

災害時に使われる日本語は、日本人が思っている以上に難しく、専門用語が多用されます。ワークショップでは、災害時に外国人の置かれる状況や「やさしい日本語」を作る12のルールなどを学び、災害時だけでなく、日常のコミュニケーションや情報発信にも役立ててもらいます。「外国人に情報提供」＝「英語」と考えている人には「目からウロコ」との感想も。



立命館大学のボランティアセンターで行った「やさしい日本語」ワークショップ

### 「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人もわかりやすい日本語のことです。これは、地震などの災害が起こったときに有効なことばです。

1995年1月の阪神・淡路大震災では、日本人だけでなく日本にいた多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず必要な情報を受け取ることができない人もいました。

そこで彼らが災害発生時に適切な行動をとれるように考え出されたのが「やさしい日本語」なのです。

(「やさしい日本語」HPより)



### やさしい日本語に挑戦！の答え

- 安否を確認する  
→ 大丈夫かどうかを聞く、調べる
- 外出を控える  
→ できるだけ外出しない
- 火の元を確認する  
→ 火が消えていることを確かめる
- 身の安全を確保する  
→ 自分の体を守る

「やさしい日本語」ホームページ『新版・災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』言い換えリストより